

# 【ねがいましては】

第80号

平成7年11月25日

共和珠算学習塾

## 「放課後の変化」

私の小学校・中学校時代（昭和40年代）ですが、「学校」といえば「学校だけ」でした。つまり、定時に行き、定時に帰る。これが極々当然でした。帰るとすかさずランドセルを「ドン」と放り投げ、「〇〇ちゃん遊びましょ！」と、歌いながら友だち宅へ……。そして日が暮れるまでひとしきり遊び、帰宅すると夕食の良い香りがしてきます。そしてお腹いっぱい食べるといった生活が当たり前でした。世の大人たち、特にサラリーマン諸氏ならびにOLの方々は、アフター5なる退社後のもう一人の自分をEnjoyしている人も少なくはありません。自分の趣味に没頭することで心の健康回復をはかっているのかな？ 私の子ども時代も「放課後」がある意味そのような時間だったと思います。それが明日への自分の準備になっていた……。

現在の学校の姿は少々違うものになったような気がいたします。「放課後」＝「自由」という私の時代から、「放課後」＝「って何？」

子どもたちは確実に忙しくなっているように見えます。その要因のひとつが「部活」、私の頃とは時間の使われ方が大きく変化しています。「朝練」「午後練」といった私には初めて聞く語彙が飛び交います。この部活、メリット・デメリット両方があるようです。

私を感じるメリット→①学校での教科以外にも打ち込むものがある。

②知育教育と体育教育のバランスをとることが可能？

③保護者が抱く我が子への放課後不安の解消。（非行）

その中でも私は③が気になります。大人たちは、はたして子どもたちを信頼しているのかな？ 以前より増して、ご両親がそろってお仕事に従事されている家庭の割合が私の頃より格段に上がっているようです。「かぎっ子」ということばも私の頃には存在していなかったと思います。

子どもたちを授業終了後も引き続き学校へ置いておくことは、子どもたちの安全が確保されるだけでなく、親の目が届かない時間帯に心配される「非行」などの防止につながります。考え方によっては一石二鳥……。これは保護者側からの感触？ ですが何かをすればどこかに小さなひずみがあったり……。その一つが先生方への負担です。この部活ですが、先生方は皆、喜んで従事されているのでしょうか。という疑問が残ってしまいます。朝練のために早朝出勤、午後練もあるため帰宅も遅くなる。先生方にもそれぞれ「家庭」があるはずです。当然、ご家族がいらっしゃるはずです。休日の家族団らんの時間は確保されているのでしょうか。また、部活に参加している児童・生徒たちにも当然ご家族がいらっしゃいます。家族そろって外出という大切な思い出作りは……。

すべてのお子さんに、とは思っておりませんが、私の教室でも目がトロンとして起きているのか寝ているのかわからない表情の子が増えてきたような、そんな気がしないでもない……。 「どうしたの？」と聞くと、「朝練で寝不足気味なんです。」と、返事。その様子が私には毎日の出勤地獄で疲れ切っているサラリーマン諸氏の姿と重なります。

子どもたちが自由で安心に満ちた放課後を取り戻せるよう、大人たちは何か対策を講じる必要があるのではないのでしょうか。それにしても、子どもたち、そして先生方、我慢強いと思います。お疲れ様です。